

# 第23回 奄美を描く美術展

【本展】 会 期：令和6年10月12日（土）～11月4日（月・振休）  
※休館日 10月16日（水）

観覧時間：9:00～18:00（最終日は16:00まで）  
会 場：田中一村記念美術館 企画展示室 【観覧無料】

【巡回展】 会 期：令和6年11月21日（木）～11月24日（日）  
※会期中、休館日は無し

観覧時間：9:00～17:00（最終日は15:00まで）  
会 場：大和村防災センター 防災研修室 【観覧無料】

## 大 賞



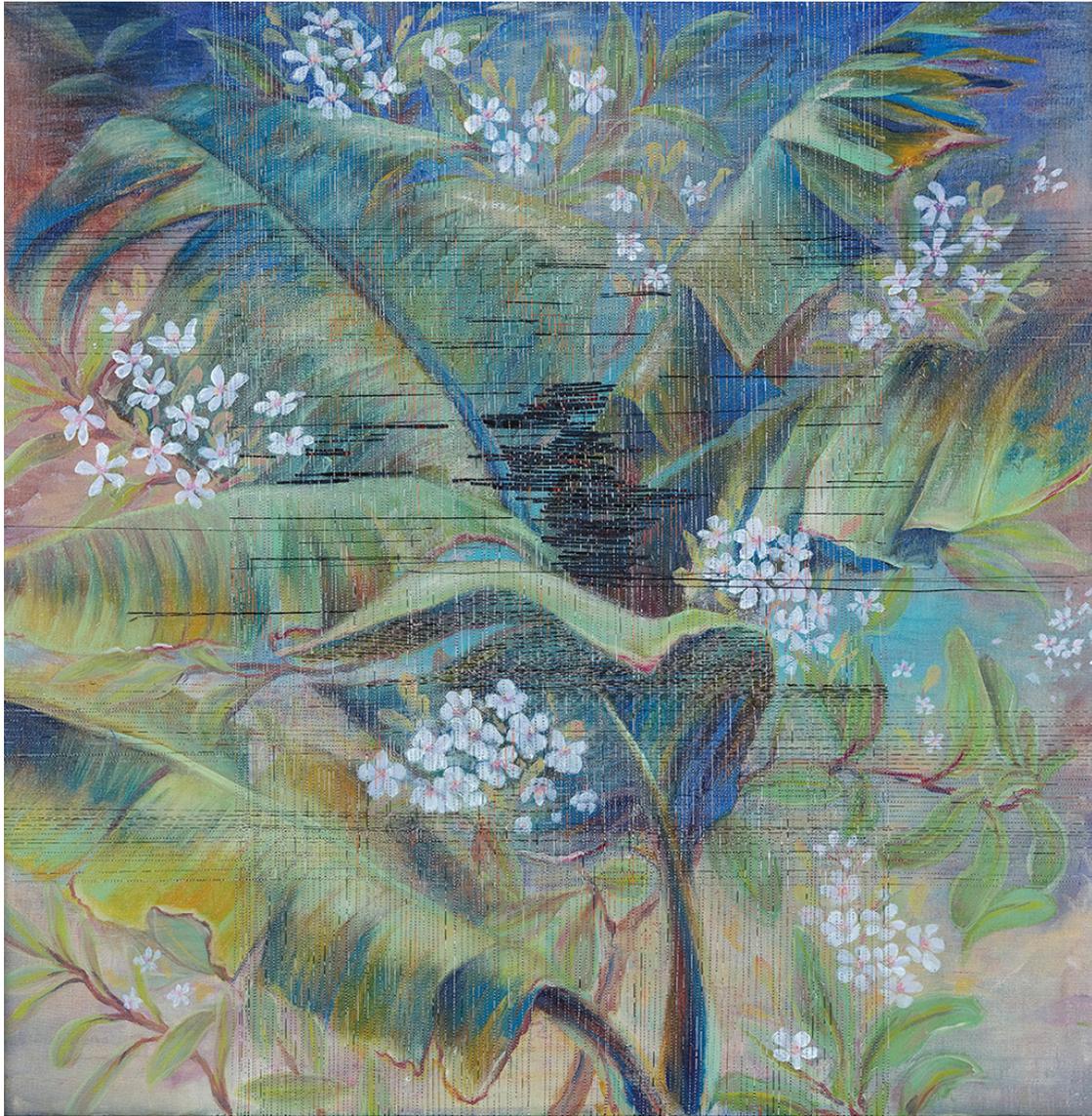
《けんむんの杜》

S15号 油彩・コラージュ

横山 陽一（神奈川県）

〔評〕

作者独自の視点で見た奄美が、個性的な表現にうまく落とし込まれている。不思議な幻想性が違和感なく絵画化されており、作者が鑑賞者に伝えたい世界が画面全体にあふれている。テーマ性、表現技法ともバランスが取れており大賞作品にふさわしい。



《 縫ぎ続けることについて 》

S15号 油彩・糸

中嶋 友美 (奄美市名瀬)

[ 評 ]

ベースであるキャンバスに奄美の植物が描かれ、その上に大島紬の糸を縫い込むという挑戦的なファイバーワークを試している。この試みは自己満足に終わることなく、絵画という限定された空間に深みを与えることに成功している点が、非常に評価できる。

[ 審査総評 ]

全体的に非常にレベルが高い。日本画、洋画、水彩、工芸など手法が多様で、それぞれの作者が見て感じた奄美を表現している。百人いれば百通りの世界観がある。入賞・入選した作品は、作者の個性が発揮され、鑑賞者に訴える力のあるものが揃った。納得のいく審査ができた。

この「奄美を描く美術展」は、技術・テクニックの熟練を求めているというよりは、作者が独自の奄美を見つけ、それを作品化することを求めていると思う。そうして生み出された作品によって、観た人の新たな気づきに結びつく。

ぜひこれからも、そういった作品が集う展覧会であってほしい。

(第23回奄美を描く美術展 審査員長 土方明司)

# 優秀賞



しつやさんぽ  
《 湿夜散歩 》

F10号 油彩

大島 美森 (京都府)

[ 評 ]

不思議な作品だ。決して奇をてらった場面ではない、おそらく自然の一つの情景を切り取ったものだろう。しかし、フォルムの捉え方や柔軟な色彩の表し方が見事にかみ合い、現実とは異なる非日常的な空間の表現に成功している。また、余白を効果的に使ったことが画面全体を引き立てている。



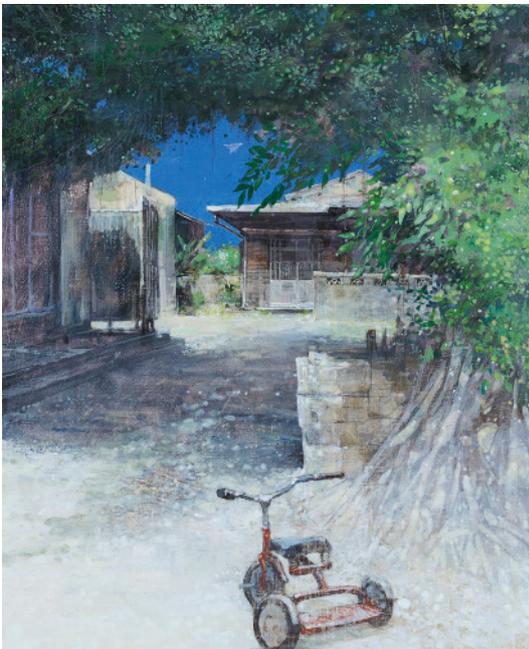
《 つむぐ想い 》

F15号 アクリル

渡瀬 俊輔 (鹿児島市)

[ 評 ]

作者の画力が光る、非常にうまい絵である。手前の写実的で克明に描かれた女性像と、背景の塊で捉えたガジュマルとの対比が効果的だ。全体的にモノクロームの表現であるが、豊かな色彩を感じさせる。日常と非日常のあわい、境目を見事に表したレベルの高い作品だ。



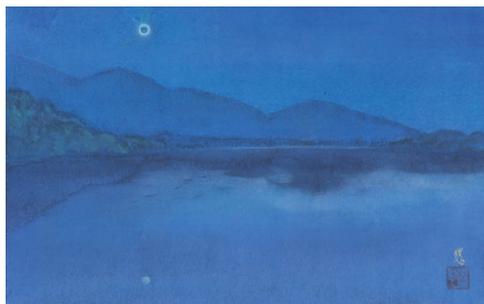
じかん  
《 時感 — AMAMI (2024) 》

F15号 油彩

餅原 宣久 (鹿児島市)

[ 評 ]

島の日常の一瞬を切り取ったスナップショット的な構図で、丁寧に描かれている作品である。色彩の使い方がうまく、緩やかな明暗、光と影は劇的ではなくさりげなく描いている。画面手前の、三輪車が淡く光の中に溶け込んでいく光景は、幻想性を生み、デジャビュの世界に鑑賞者を引き込む。



## 《 静寂 》

M10号 日本画

池見 悠 (京都府)

[ 評 ]

モノトーンに近い青が、神秘性を宿している。おそらく奄美の実景をスタートとしながら、その風景を内面化して物語性のある非常に豊かな世界に表現していることが評価できる。



## 《 海に映る 》

F15号 アクリル

當眞 洋美 (奄美市名瀬)

[ 評 ]

空と水面の描き方の対比に新鮮な感覚が見られ、特に水面は異なる二つの筆使いが目目を引く。水面に映り込んだ雲の造形が成功している。新しい試みに取り組もうとする作者の心情がうかがえ、評価できる。



## しま たちから 《 奄美大島ぬ寶 》

F15号 アクリル

中元 としみ (徳之島町)

[ 評 ]

シンプルで素直な表現だからこそ、一筆一筆に込めた作者の思い、この作品に対する愛情愛着がひしひしと伝わってくる。サガリバナの表現が装飾的で、この作品の良いアクセントになっている。



## 《 輪廻のさらにその先へ 》

M15号 アクリル・木塑粘土

Tako★MASARU (神奈川県)

[ 評 ]

独自の世界観が魅力的だ。レリーフのように絵の具を盛り上げて描いた木、その木が抱いた奥へと伸びていく異次元空間、そして大きく描かれた月。そういった現実と異次元の対比をうまく作品化している。



## 《 記憶する ADAN II 》

64x62cm 工芸

平井 真人 (沖縄県)

[ 評 ]

幾何学的なフォルム、黒だけに絞った色彩、布の手触りやシワ、それらがうまく融合して独自の表現を生み出している。このことが、鑑賞者に自由な発想のきっかけを与えてくれる。

# 入 選

作者名	作品名	サイズ 素材等	作者名	作品名	サイズ 素材等
丸山良二郎	★ 想う	F15号 水彩	西田 尚子	無常	F15号 日本画
田中 孝林	★ 記憶のスケッチ	F15号 ミクストメディア	加藤 恵子	IKAROS	52.5×36.5cm 水彩
高山 法雄	★ 魂で染める	F15号 水彩	中尾 克依	楽園	F10号 パステル・水彩
坂本 千春	★ 深青の世界	F15号 アクリル	喜山 弘二	思い出のじいちゃん家	F10号 クレパス
関根 美里	★ 島のめざめ	M10号 アクリル	藤井 眞弓	赤い蘇鉄	F10号 油彩
北川 清子	★ 奄美追想	S15号 水彩	広岡ひとみ	夏の思い出	F10号 アクリル
金 道子	★ 夏の荒場	50×35cm 油彩	成田 夏希	宝探しの夜	P15号 日本画
瀧田 秀子	★ ヒズキの音色	F15号 アクリル	小島 尚子	奄美の森の楽しみ	S15号 アクリル
中田 久男	★ till there was her	41×48cm 油彩・テンペラ・コラージュ	藤本 信司	秒夏の土盛	M10号 日本画
重村 敏光	★ 光・差す島「奄美」	S15号 日本画	喜納 祥子	歓迎（クワズイモ）	F15号 油彩
前川 智映	★ 奄美の森が輝く時間	F15号 日本画	渡 洋子	油井豊年祭	F15号 油彩
佳元 佐知	★ 名瀬の夕焼け雲	F10号 油彩	Kate O'Callaghan	Emerald Steps - materiya	F15号 アクリル
仲村 和三	★ 深山峡谷	F15号 油彩	池田三樹子	トロピカルの果実	F10号 アクリル
服部佐紀子	★ 雨のあと	F10号 アクリルガッシュ	麓 真理子	空と海とベニアジサシ	F15号 油彩
松野 勉	★ 奄美幻影	P8号 鉛筆	前島美和子	生きる力	F10号 水彩
千賀 ちか	★ 月夜のお散歩	F15号 水彩	東 菜月	call	F12号 油彩
岡山 良治	木霊	F15号 アクリル	栄 俊久	奄美の宝Ⅱ	F15号 アクリル
野間 まり	古仁屋の魚屋さん	F15号 油彩	安江 福子	金作原	F15号 油彩
新島 修二	加計呂麻島より 東シナ海を望む	F15号 油彩	玉城 邦子	旅立ち	F15号 油彩
田村 信子	そてつとクロトン	53×65cm 工芸	上田 泰徳	寄港	F15号 日本画
嶋田 敏夫	樹々の音	S15号 水墨画	屋 幸子	癒しの島奄美	F15号 水彩
草薙 友貴	AMAMI (甘実 & 奄美)	F15号 油彩	中村 哲郎	雨あがる	F10号 日本画
北山みね子	ソテツの森にて	F8号 水彩	栄 ミホ	埋む	F10号 アクリル
元井 晴美	芝や戯画	F15号 油彩・アクリル	植村 恭子	ゆらい～平瀬マンカイ～	F15号 火山灰
稲井田有希	海へかえる	F10号 油彩	成 実	紅三華月～桜蘭, 琉球定家葛, 大浜朴～	F15号 墨・アクリル・テンペラ

※ ★印は「賞候補作品」

※ 「入賞作品 10点」及び「賞候補作品 16点」は、大和村で開催する巡回展に展示（会期：令和6年11月21日～11月24日）